

## 7.3 特異的減感作療法薬

舌下剤：

使用上の注意(共通)

**【警告】**緊急時に対応できる医療機関で、舌下免疫を受講した専門医に限る。  
薬剤師：処方医の受講修了を確認。

**【禁】**1.本剤でアレルギー・ショックは禁忌。

2.アレルギー発生時の対処法：

- ・非選択的β遮断薬服用中  
→アドレナリン通常量で効果不十分。
- ・三環系抗うつ薬,MAO阻害薬服用中  
→アドレナリンの作用が増強。
- ・重症の心疾患,肺疾患,高血圧症で  
→アドレナリン投与で症状悪化。

3.全身性ステロイド薬投与時

→免疫系抑制で,本剤の効果消失。

4.他の減感作療法薬との併用時：

→アナフィラキシーのおそれ。

5.気管支喘息：重症に禁忌。

軽症に慎重に(喘息誘発)。

6.悪性腫瘍,又は免疫系に影響を及ぼす

全身性疾患(例えば自己免疫疾患,  
免疫複合体疾患,又は免疫不全症等)。

**【注】** a.12歳未満,65歳以上は未承認。

b.アナフィラキシーへの対応を準備。

・投与後30分以上安静状態を保つ  
(初回は医師の監督下で)。

・投与前後2時間程度は激しい運動,  
飲酒,入浴等避ける→副作用。

・家族のいる場所や日中に服用

c.抜歯後,口腔内炎症等→

吸収に影響→傷や炎症部位に刺激。

d.症状改善時：中止は慎重に

→再発のおそれ。

**【患】**1.妊娠中：アレルギー反応で→  
ヒスタミン遊離→子宮収縮作用。

2.授乳禁。

3.喘息発作等の激しい喘息症状,

急性感染症罹患時,体調が悪い

→服用可否は医師に相談。

## ●アシテアダニ舌下錠(塩野義)

ヤケヒョウヒダニ・コナヒョウ

ヒダニのエキス同単位配合：

100単位. 300単位

**【効】**ダニ抗原によるアレルギー性鼻炎。

・ダニ抗原によると確定診断する。

**【用】**1日1回100単位舌下から開始,

1回100単位ずつ増量 (適宜延長)

→1日300単位。

・完全に溶解するまで舌下に保持,  
以後5分間はうがいや飲食を禁止。

・アレルギー発生時(特に漸増期)は  
→医師に相談するよう患者指導。

**【副68%】A.重大**：ショック,アナフィ  
ラキシー,咽頭浮腫・喉頭浮腫。

**D.** そう痒感蕁麻疹,発疹,湿疹,●口腔  
浮腫20%,●口腔そう痒感18%,●口内  
炎5%,不快感,舌浮腫,口の錯感覚・感  
覚鈍麻,舌炎,口腔粘膜水疱形成,口腔  
内痛,舌痛,口内乾燥,舌そう痒感,口蓋  
浮腫,鼻部不快感,くしゃみ,鼻汁,鼻閉  
流涙,眼のそう痒感●耳そう痒感10%,  
耳痛,耳不快感,●咽喉刺激感21%咽頭  
不快感,咳嗽,呼吸困難,喘息,咽頭痛,喉  
頭痛,喉頭不快感,咽喉乾燥,腹痛,悪心,  
消化不良,下痢,腹部不快感,胃炎,嚥下  
困難,嘔吐,食道不快感,異物感,頭痛口  
唇浮腫胸部不快感,胸痛,口唇炎,倦怠  
感,味覚異常,口唇の痒感。